



船橋市 指定管理者 医療法人社団輝生会

船橋市リハビリセンター だより

2017. 2

VOL.12

発行日 / 平成 29 年 2 月 10 日 ●発行 船橋市リハビリセンター ●発行責任者 センター長 石原 茂樹
TEL (047) 468-2001 FAX (047) 468-2059 URL <http://www.funabashi-reha.com/>

今年もよろしくお願ひいたします。



理学療法士 作業療法士 言語療法士 ソーシャルワーカー 健康運動指導士



サポート部



外来スタッフ (医師・看護師・介護福祉士)



訪問看護 看護師

地域リハビリテーションの定義の改定について

日本リハビリテーション病院・施設協会 2001 年改定版では、地域リハビリテーションとは、障害のある人々や高齢者およびその家族が、住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全に、いきいきとした生活が送れるよう、医療や保健、福祉及び生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行なう活動のすべてを言う。としていましたが、2016年改定では、「障害のある人々や高齢者およびその家族」を、「障害のある子供や成人・高齢者とその家族」と、対象を幅広くしています。また、「住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全に」を「住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう」とし、その人らしくが強調されています。さらに、「医

療や保健、福祉及び生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織」は「保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織」に変更となっています。

地域リハビリテーションの定義 (2016 年改定)

地域リハビリテーションとは、障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行なう活動のすべてを言う。

輝生会の
基本理念

■「人間の尊厳」の保持
■「主体性・自己決定権」の尊重

■「地域リハビリテーション」の推進
■「ノーマライゼーション」の実現

■「情報」の開示

訪問リハビリとは・・・

リハビリのスタッフがご自宅に伺って、その方に必要なりハビリテーションを行うことをいいます。

こんな質問を受けることもあります。

「自宅でのリハビリなんて場所も狭くて何もできないでしょ?」「家でいったい何をするの?」

では、自宅でどのようなリハビリを行うのか実際の場面をご紹介します。

訪問診療



訪問診療は3ヶ月に一度行っています。診察では、自宅や施設内の身体能力の評価や日常生活動作の自立の有無などの確認をし、今後の希望などを伺っています。

その内容をふまえ、スタッフと話し合い(カンファレンス)を行い、日常生活になるべく支障がないように、今後の方針や具体的なリハビリ内容を検討します。

調理の練習



様々なことが原因で、調理を行うことが難しくなったとしても、手順と一緒に確認したり、便利な道具を使ったり、どうすれば調理ができるのかを考え、練習を行います。必要に応じて、ご家族やヘルパーさんの手も借りつつ自宅での役割を担えるよう練習を行います。

屋外歩行 練習



自宅内での歩く練習以外にも屋外を歩く練習もおこなっています。体力をつけるために長い距離を歩いたり、一人で散歩ができるように一緒に危険な場面・場所を確認したりと、目的は色々あります。

トイレ練習



左の場面は自宅のトイレでどのように介助をしたら良いのかをご家族に説明しているところです。ご家族が楽に介助が出来るよう、介助方法をお伝えしています。自宅だからこそ、日々の生活により直結でき、実践的な練習を行えるメリットがあります。



雨の日でも風の強い日でも、スタッフはバイクでお宅に伺います。



階段昇降 練習



階段の上り下りを練習しています。リハビリをする上で一番注意していることは怪我や転倒がないようにすることです。リハビリでは苦手なことを実施する事が多いため、なるべく怖がらずに安心して実施できるよう安全管理に配慮しながら行っています。

訪問リハビリは、ご自宅での生活が少しでも楽に、安全に快適になるよう支援するサービスであると考えています。自宅での生活に不安がある方は、ケアマネジャーか担当者(高橋・江尻・高信) 047-468-2001 にご相談ください。

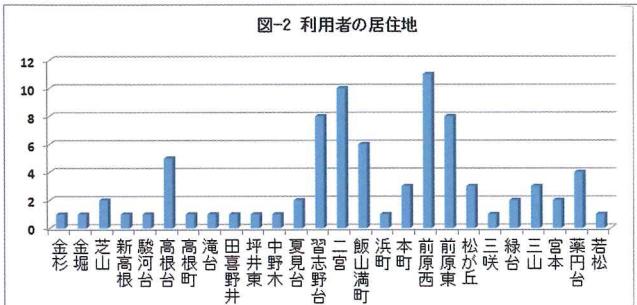
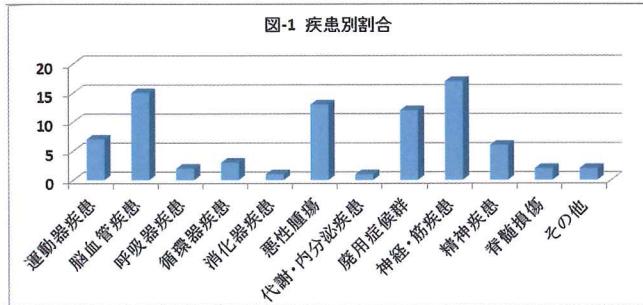
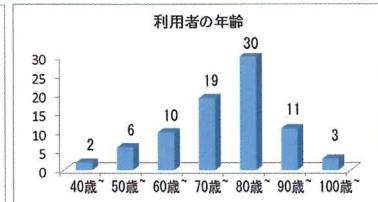
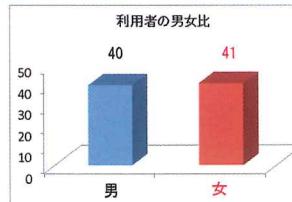
「リハビリセンターの訪問看護ステーションだから、リハビリがメインでしょ？」
・・・いえいえ、そんなことはありません。

今回は、私たち訪問看護ステーションの仕事内容についてお伝えいたします。



利用者さまの属性

男女比はほぼ半々、年齢は40歳台から100歳台までいらっしゃいます。70歳～89歳までの方が全体の6割を占めており、介護保険利用の方が約8割です。いろいろな疾患の方にご利用いただいている。また、住んでいらっしゃる所もさまざまです。(図1・2参照)

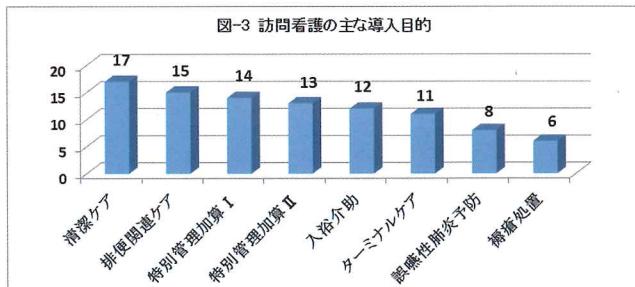


サービス内容

看護師の手と眼による全身状態の観察がメインですが、意外に多いのが入浴介助での訪問看護導入です。安全性を確認できたらヘルパーさんにつなぐのも私たちの大切な役割だと考えています。

また、ご自宅で最期まで過ごしたい・過ごしてもらいたい…という方々への支援も増えてまいりました。

導入目的のうちTOP 8を挙げました。(図-3)



*清潔ケア：入浴以外の清拭、足浴などのケア

*特別管理加算Ⅰ：カテーテル、気管切開、胃瘻などの管理

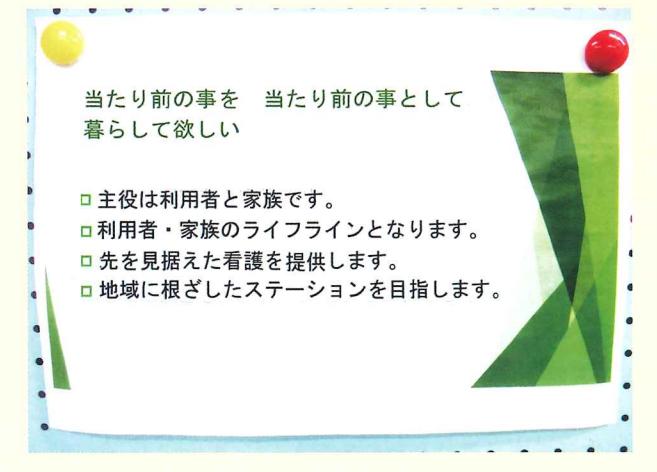
*特別管理加算Ⅱ：在宅酸素、点滴、ストマ、間欠導尿などの管理

*褥瘡処置：特別管理加算Ⅱに該当しない褥瘡処置



大事にしていること

昨年4月の開設時に掲げた『わたしたちの志』です。事務所の壁で、いつも見守ってくれています。悩んだ時、迷った時、ここに立ち返っています。



どんなことでもご相談ください

専門職として、訪問看護につないだ方がよいと思うけれど、きっかけ作りが難しい・・・。そんな悩みを感じたことはありませんか？まずは、とりあえずご相談ください。訪問看護が入る・入らないに関わらず、地域で奔走する医療・福祉の方々と一緒に考え、汗をかけたら・・・これほどうれしいことはありません。

訪問看護を必要とする場合、訪問看護ステーション：所長 横山恭子 またはソーシャルワーカーまで
お気軽にお電話（047-773-0319）ください。

リハビリ事業 (介護予防)

介護予防を図る目的で

市内に住む 65 歳以上の身体機能の低下した方を対象に、
実施している事業が「リハビリ事業」です。



「リハビリ事業」では、リハビリ教室、パワーリハビリフォローアップ、プールリハビリをしています。

安全を守るために・・

リハビリ事業は高齢者、低体力者を対象としています。
運動中に急な体調不良等が起こる可能性を常に考えておかなければなりません。
また、その際に迅速かつ適切に対応するためにの準備はとても重要です。

「プール内で意識消失や足がつったなどで動けなくなった」場合を想定し 救助訓練を行いました



介助の方法や、引き上げにげにあたっての動線、協力を依頼する連絡ルートなど、
リハビリ事業の全スタッフで実践しながら確認しました。

＜利用の手続き＞ 船橋市リハビリセンター 電話番号 047-468-2001 へお問い合わせください。

ス タ ッ フ 紹 介

＜センター長から＞

堺さんの生まれは富山県小矢部市のこと。船橋市リハビリセンターの勤務は平成 26 年からですが、平成 21 年に船橋市立リハビリーション病院に入職し、回復期病棟で入院患者さんを担当し、訪問リハビリ部門で、在宅の患者さんの生活を支えるリハビリを学んできています。

現在は理学療法士として、そしてサブマネジャーとしての仕事を担当していただき、チームの中核として、センターの活動を盛り上げてくれています。

利用者さんからも、明るい声による豊富な知識に裏打ちされた指導は、熱い信頼を得ています。



堺 雅代
理学療法士 サブマネジャー

【質問】①船橋市リハビリセンターの魅力を教えてください。
②専門職として心がけていることを教えてください。
③今後の抱負を教えてください

上記の質問に対して

リハビリセンターの魅力は比較的小規模でアットホームなところだと思います。最近では、火曜日の午後に 3 ヶ月間のテーマをきめての通所リハビリ教室 10 月から 12 月は「歩こう会」、1 月から 3 月は「腰痛予防 / 腰痛緩和体操」を開催するなど、新たな取り組みに各スタッフが積極的に取り組んでいます。

専門職として心がけていることは、専門的な知識をもとに、患者さん / 利用者さんが「楽しく生活ができる」ように関わってゆきたいと思っています。

今後の抱負は、船橋市リハビリセンターが在宅の拠点としてより地域とつながってゆけるように活動してゆきたいと思っています。

とのコメントをいただきました。

地域リハビリ 拠点事業

「地域リハビリテーション拠点事業」では、
関係機関と協力し様々な活動を行っています。

～活動報告～

地区勉強会（南西部）

平成 28 年 11 月 18 日（金） きららホール

板倉病院の主幹で「ここまで出来るぞ在宅支援！～リウマチ患者さんを支えるために～」というテーマで開催しました。まず疾患について、板倉病院の鈴木伸之先生に、大変分かりやすく講義いただきました。

その後に、リウマチ患者さまの在宅支援にあたっての退院時カンファレンスを想定し、課題と対応策についてグループワークを実施しました。



開会の挨拶 板倉病院 梶原崇弘 院長



鈴木 伸之先生の講演



グループワーク



介護職員向け勉強会 移動（在宅編） 平成 28 年 11 月 22 日（日） 船橋市リハビリセンター



今回のテーマは「移動（在宅編）」とし、主に在宅（利用者さま宅）で働く介護職の方を想定して開催しました。歩行や階段昇降の介助の基本的事項のおさらいから、在宅ならではの狭い通路での歩行介助や、特有の症状（すくみ足や突進など）に対しての介助方法、更に装具の装着方法や杖のつき方など実技を通して確認しました。



階段昇降

装具 装着

介護職員向け勉強会（摂食・嚥下編） 平成 28 年 12 月 13 日（火） 船橋市立リハビリテーション病院



飲み込み 実技

摂食嚥下障害について、船橋市立リハビリテーション病院・ST 石川あゆみさんにご講義いただきました。

今回は、飲み込みに関してだけではなく、口腔体操をなぜ行うのか、実技を交えながら、分かりやすくお話ししていただきました。

【今後の予定（平成 28 年度）】

介護職員向け勉強会

2/28

（火）

指導者向け

船橋市立リハビリテーション病院

地域リハビリ拠点事業のホームページは船

橋市リハビリセンター HP 内にあります。

この URL で直接アクセスできます。

活動状況の閲覧、勉強会の申込書などが格納されていますので、ブックマーク登録してご活用ください。

地域リハビリ拠点事業



ホームページ QR

スタッフが地域へ出向いています。

地域リハビリテーション拠点事業では、リハビリの普及・啓発活動および介護予防、他施設連携の一環として、施設や職場へ赴き、体操指導や介助指導などを行っています

11/5
(土)

社会福祉法人 あかね

デスクワークが中心で運動不足や体の硬さが気になってきているという相談に対して、就労支援事業所の方々へ「職場でできる体操と運動」をお伝えしました。



後日、「毎日やっています」との報告をいただきました。

(担当：小林 PT)

11/26
(土)

二宮飯山満地区 社会福祉協議会

飯山満公民館でのミニデイサービスへ参加した方々に対して、健康チェック（血圧測定）、「明日からできる体操」の紹介をしました。



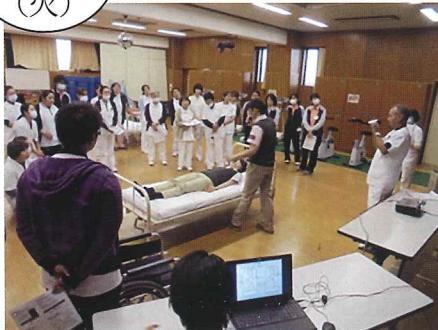
「分かりやすくて良かった」「これなら家でもできそう」などの声をいただきました。

(担当：高木 NS、落合 PT)

11/29
(火)

千葉病院

お隣千葉病院さまへ、看護・介護職員の方々に対しての「移乗の介助方法」指導のためお邪魔しました。



「基本的なことが確認できて良かった」「(介助される側を)体験できてよかったです」などの声がありました。(担当：日野 CW)

1/14~1/15
(土・日)

ヘルシ一船橋フェアに参加してきました。

船橋東武百貨店で行われました「ヘルシ一船橋フェア」にて、1月14日・15日に「体力測定」を行いました。



当日は、簡単な機材で握力・脚力・バランス・俊敏性などを測定しました。健康に自信のある方もそうでない方も楽しみながら挑戦されていました。



委員会より

サービス向上委員会

私たちの取り組み 「接遇と私」

輝生会では「よりよい接遇をめざして」を合い言葉にして、日々の業務に取り組んでいます。当センターでは、毎朝ミーティングをしておりますが、特に月に2回スタッフの接遇への取り組みを話してもらうことにしています。その内容は「足跡」ファイルにまとめています。



今回は「足跡」に掲載されたケアワーカーの日野ゆかりさんが話された内容「あなたの笑顔は、他者を元気にさせる」を紹介します。



社会人になり早や11年。常に、接遇面（言葉使いや敬語の使い方、立ち居振る舞い）に対して、当時から問題を抱えている状況から打開できずにいる。年齢を重ねても尚、上司から指導を受け続けている私。唯一のとりえとして、己を鼓舞していることは、「あなたの笑顔は、他者を元気にさせる力を持っている。」という言葉。どこにいても、笑顔に対しての評価は高く、輝生会に入職した際も事実として、「あなたの笑顔を見て採用を決定した。」と、後日面接官に言って頂けたことは鮮明に記憶している。常に意識せずに人々と触れあってきた私だが、今後はその笑顔に磨きをかける為にも、温かい言葉も加えていける接遇力を備えられればよいと思っている。

医療安全委員会

KYT を学ぶ

平成28年11月15日、KYT研修を実施しました。講師は医療安全担当の訪問看護ステーション所長の横山さんです。
医療安全を考える上では、事故は起こるもの。「To Err is Human 人間は間違える存在である」という認識が重要です。そのことから、医療事故防止のために、インシデントレポートをふくめた事故の報告制度、事故防止マニュアルの整備などへの取り組みがなされてきています。
今回は、「事故の未然予防 KYT」スライドを用いて、KYTを勉強することを目的としました。
その中で、**KYTについて**、
○危険を予知し訓練する活動、
○危険のポイントを探り、対策を導きだす、
○具体的危険を具体的に解決する手法である説明がありました。

<KYT技法の種類>

1 健康問い合わせ	KYT
2 イラスト・フォト・まんが	KYT
3 インシデント・ひやりはっと	KYT
4 作業指示(指示だし指示受け)	KYT
5 ワンポイントKYT	
6 ひやりはっとミーティング	
7 一人	KYT

(自問自答カード、患者家族 KYT)

問題解決基礎 4ラウンド法

	問題解決 4ラウンド法	視点	KYT	大脳の 情報処理	発想
I	事実をつかむ (現状把握)	見る	どんな危険が ひそんでいるか	知覚	量
II	本質をさぐる (本質追究)	考える	これが危険の ポイントだ	選択	質
III	対策を立てる (対策樹立)	計画する	あなたなら どうする	判断	量
IV	行動計画を決める (目標設定)	決断する	私はこうする	決断	質



KYTの語源については、K・・・危険 (Kiken)、Y・・・予知 (Yochi)、T・・・トレーニング (Training)のこと。

また、問題解決のための4ラウンド法の説明を受けた後、通所リハ・クリニック・訪問・電話対応・の各場面で事前にスタッフから集めた『ヒヤッとした場面集』の中の事例を用いて、4ラウンド法を実施し、危険のポイントを探り、明日からできる合言葉を考えもらいました。

最後は、発表グループ全員で指差し呼称！で締めくくりました。



地域の施設紹介

ケアハウス市立船橋長寿園を訪ねて

住所：船橋市飯山満町 2-519-3 TEL: 461-9994

今回は、リハビリセンターと同一建物にある「ケアハウス市立船橋長寿園」を紹介します。

ケアハウスとは、心身機能の低下などにより独立して生活するには不安の

ある高齢者の皆さまが、安らぎとゆとりの中、心身ともにすこやかでいきいきと自立生活を長く続けられるよう配慮された住居施設です。

長寿園は平成 10 年 4 月に開設されました。40 名の定員で、ご夫婦で入居できるお部屋もあります。現在、女性 8 割、男性 2 割です。

対象は、市内に住所のある 60 歳以上の方で、お食事の準備が出来ない程度の身体機能が低下していたり、高齢のため独立して生活することが難しく、ケアハウスを利用することで、自立した生活が可能となる方です。

申し込みは、「広報ふなばし」に入居者募集の旨を掲載しますので、お問い合わせ下さい。



ケアリハビリセンター 全景



ケアリハビリセンター 玄関



園長の林さんから一言

入居者さまがいつまでも元気で充実した生活を送って頂けることをモットーに全職員が一丸となって業務に取り組んでいます。

特に外出会や施設内外のクラブ活動に力を入れております。」



利用者さんの声から

日々 リハビリ

原 和子 さん



平成 15 年 2 月 6 日夜 食事中に茶碗を落とし、口角がさがり、歩行がおかしかったようです。医療センターに駆け込み、脳梗塞でした。その夜、入院。翌朝覚めた時、左手、左足が動かなく自失呆然阿鼻叫喚、涙が止まりませんでした。医療センターには 3 月 14 日まで入院し、回復期リハビリを行うために、船橋市立リハビリテーション病院に転院しました。

回復期リハビリでは、左片麻痺と構音障害の残存に対する機能回復訓練と、日常生活の自立に向けた生活動作訓練をうけました。この間、言語・理学・作業療法とリハビリに励み、発症から 3 ヶ月後の 5 月 14 日に屋内では杖を使わざとも歩けるようになりました。自宅退院出来ました。退院後は、少しでも、左手の状態が改善するようにと、家の近くにある船橋市立リハビリセンターを紹介され、外来通院しながらの作業療法が開始となりました。

しかしながら、平常と同じように家事をこなすことに疲

れ、また上手に左手が使えないことでネガティブな毎日を過ごしていましたが、リハビリセンターに通いながら、できることが少しづつ増えてくることで、気持ちが徐々にポジティブになってきました。



昨年の秋には通所リハビリで「歩こう会」という取り組みがあるとのことで参加し、皆さんとお話しをしながらの歩行は心身共に良好で、長い距離を歩くことに自信がついてきました。

これからも、趣味のゴルフを目標に諦めずリハビリを継続し希望を持ちポジティブに病と向き合って行きます。最後に「いやな愚痴こぼし」ですが、何時も笑顔で対応下さるスタッフの皆様に心から感謝しております。ありがとうございます。今後ともご指導のほどよろしくお願ひいたします。

センタースタッフ数 (H29. 2)	
医師	2名 (火、木)
看護師	6名
理学療法士	10名
健康運動療法士	2名
作業療法士	5名
言語聴覚士	1名
介護福祉士	2名
ソーシャルワーカー	2名
サポート部	12名



散歩道に
蝱梅が咲いていました。

【編集後記】 お正月がすぎ、あっという間に 2 月になってしましました。今年の目標を宣言しながら、1 年が始まったところだと思います。センターでは若い力で、地域リハビリに積極的に取り組んでいきます。特に、地域リハビリ活動として、施設や職場へ赴き、体操指導や介助指導などを行っていますので、利用していただければ幸いです。

寒い冬、風邪など引かずに元気に乗り切りましょう。

(石原 茂樹)